

もうすぐお盆の時期です。

正式名称は盂蘭盆会(うらぼんえ)といいますが、『大辞泉』によると左記の通りです。

「7月15日を中心に祖先の冥福を祈る仏事江戸時代からは13日から16日にかけて行われる。(中略)現在は、地方により陰暦で行う所と、一月遅れの8月15日前後に行う所がある」

今号の期間である7月13日からは、東京など都市部において、お盆の行事を行うところもあります。都市部以外では全国的に8月が一般的ですが、いずれにしても、家族・親戚などの縁者が一同に集まる機会でしょう。

お盆とは先祖の霊があゝの世から帰ってきて家族と一緒に楽しいひとときを過ごし、また帰っていくという日本古来の信仰に基づく行事です。地域によってお墓参りの形は様々ですが、特に沖縄県のお盆の行事は特徴的です。『いのちのまつりヌチヌグスージ』という絵本が話題となっています。ヌチヌグスージとは、沖縄の言葉で「命のお祝い」という意味です。左記で、この絵本の要約を紹介させていただきます。

▽

はじめて沖縄にやってきた少年コウちゃん。そこで、島独特の先祖様のお祭りと出会います。お墓の前で食事をしたり、さらに陽気に歌ったりする姿に驚きます。好奇心旺盛なコウちゃんは島の人たちに近づき、色々尋ねていきます。物語は、島の「おばあ」とコウちゃんの会話で進んでいきます。

島のおばあはコウちゃんに尋ねます。「ぼ

## 伝統行事を通じて 自己の生命の根源を知る



絵・今谷 鉄柱

うやにいのちをくれた人は誰ね〜?」と。その質問をきっかけに。命の元は両親だけでなく、両親にはさらに両親がいて、さらに両親の両親の両親が…と先祖の数を指を折って数えるのです。しかし途中で「もう数えきれない」と観念します。

「数えきれないご先祖さまが誰ひとり欠けても、ぼうやは生まれてこなかった、と言うことさあ〜」と語るおばあ。

こうして「宇宙のはじまり」から続く「ご先祖さま」とのつながりを知り、いのちの尊さを知るといふものです。

▽

この絵本には大きな仕掛けがあります。数えきれないほどのご先祖様の顔がたくさん描きこまれた折込みページがあり、それを開くと圧倒的ないのちの連鎖を視覚的にも感じ取れ、驚きと感動が伴っていくのです。

販売当初、自費出版だったこの絵本は口コミで購入者層が広がり、二〇〇四年にサンマーク出版から全国発売されて大反響を呼び、平成二十年度からは小学校三年生の「道徳」の副読本にも採用されており。

子供たちだけでなく大人である私たちも「いのち」の大切さ、尊さを再確認することは必要でしょう。伝統文化の継承が途絶えつつある昨今、先人たちが大切にしてきたそれぞれの地域や家の伝統行事を通して、あらためてご先祖様に気持ちを寄せてみてはいかがでしょうか。命の根源を大切にすることは、その延長にある自分自身を大切にすることであると心したいものです。